

諏訪市温泉寺下湯の脇

温泉寺は高島藩諏訪家の菩提寺である。上諏訪駅から徒歩約15分。寺の池には大きなコイがたくさん泳いでいた。温泉寺下は湯の脇地区で温泉が湧き出ていた。祖父母一家は昭和20年頃 東京の池袋から疎開して湯の脇に住み着いた。

「諏訪市・下諏訪町住宅案内図」(昭和37年)を見たところ、湯の脇一带に家が記載されていなかったのも不思議に思い調べてみた。

その結果：

1. 住宅地図刊行会は町役場・登記所の家屋台帳・固定資産台帳等の情報源を用いて地図を作成していたが、未登記家屋のため情報を取得できなかった可能性が高い。温泉街周辺のように、古くからの湯治宿や借家・長屋が密集した地域では、登記が曖昧・未登録のものも多く、結果として「空地」または「施設敷地」として描かれるケースがある。
2. 祖父母が暮らした湯の脇一带は温泉寺の寺有地(旧地番：湯田町字湯の脇)で下諏訪町湯田町に属していたが、後に諏訪市へ編入された。
3. 諏訪市の温泉供給路敷地・町有地(湯の脇導湯線)の境にかかっており、昭和30年代は地目「雑種地」「温泉用地」として登録されていた。
4. 「諏訪市所有」「温泉寺所有」「源泉管理組合名義」が混在しており、個人宅の登記は昭和40年代以降に現われた。従って、昭和37年当時は寺有地・町有地(温泉管理地)として扱われ個人宅の登記が存在しなかった。
5. 温泉導湯管・保安区域があり住宅地図では省略対象だった。
6. 地元住民が「あのあたりは昔、温泉の配管と小屋があって家はなかった。」と証言している。

ということが明らかとなった。

祖父母の家からは湯槽・導湯管が見え湯煙が立ち上がっていた。また工事が頻繁に実施されていたと思う。温泉寺からの坂の下には木造の共同浴場があり「湯の脇源泉」の熱いお湯につかることができた。男湯と女湯は簡素な板で仕切られていた。付近には大きな倉庫があったが、現在は「湯の脇ふれあい広場児童遊園」となっている。塾もできており昔の面影はない。隣の浜町一带は歓楽街だったので観光客、湯治客及び芸者等で込み合っていたに違いない。それらの関係者が小さな家を建てて住み着いていた可能性もあると思われる。一種独特の雰囲気漂っていた。湯の脇付近には卓球場、旅館、フランス座(ストリップ劇場)、

カフェ、骨董品屋、土産物屋及び射的場等があり賑やかであった。

「湯の脇一帯は、まさに諏訪盆地の歴史と温泉文化の重なりがみえるとても興味深い地域である。」と云えるのではないか。

(川端紅葉著 2025・11・16)

奥様の夢を実現する！ 手軽で早く煮炊でき どこでも備えられる プロパンガスを！
 日通プロパン特約販売 井口プロパンで もしもしハイハイ
 各種厨房器具販売 TEL 8585 8692 7287

家具・貴金属・靴・電気器具
 洋装・時計・靴・布団

その他百貨

6ヵ月払い

現金



